

体育ばたけの会

津田小学校 東野

2020年7月4日（土）

<県体育部会主題> 「豊かな学びが子供の未来を創る体育学習」

～「おもしろいコト」の共有から学びをスタートすることにより、豊かな学びへと続く授業づくり～

☆主題について

◇「豊かな学び」について…「見通しをもって学習に参加し、新たな価値を見出し、仲間と関わりながら課題解決に挑戦しようとする学び」



「子供の未来」について…「生涯にわたって心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフを実現する」「先行き不透明な世の中でも自らの力で歩き進む」

※学習指導要領総則では、「教科等横断的な視点に立った資質・能力」を明記し育成すること、

また、学習指導要領解説体育編第1章総説には、「学校教育に求められる資質・能力」が示されている。

このことから、体育においては、技能内容が学習内容として子供から立ち上がっていき、「教科等横断的な視点に立った資質・能力」、「学校教育に求められる資質・能力」を発揮しながら学ぶことが必要であると考えられる。



☆副主題について

◇「おもしろいコト」について…「その運動に夢中になる出来事（運動領域）」



「おもしろいコト」の共有から学びをスタートする…すべての子供が「やってみたい」と思えるような運動を提示する。その運動に夢中になれる出来事を「おもしろいコト」とし、できるかできないかに挑戦することができるようにする。

☆そのために…「子供の实態に合った問い・環境」と

「子供の实態の把握と学びの状況に合った支援」が必要

○子供の实態に合った問い・環境 →「問い」：自分なりの見通しがもてるように

「環境」：易しい場の設定、不安要因を取り除く用具の使用、簡単なルール

○子供の实態の把握 → 子供からみた運動のイメージの明記（事前調査やこれまでの学びの様子から）

○学びの状況に合った支援 → 子供の気付きやつまずきを想定し、具体的な支援を考える。

子供によって問いかけた方がよいか、情報提供をした方がよいか判断する。



<県小教研体育部会HPについて>

最近更新しました。体育ばたけの会のページも随時更新していきます。ご活用ください。

検索サイトにて「徳島県小学校教育研究会」を検索してください。

「おもしろいコト」の共有をはかるための「環境」の提案

1 「Gボール跳び箱」、「連続跳び箱」について

①跳び箱の「おもしろいコト」の共有

跳び箱の「おもしろいコト」は、「どうすれば跳び箱の向こうにいけるか」である。「○段が跳べた」、「○○跳びができた」という結果にこだわるのではなく、「どうすれば跳び箱の向こうにいけるか」に挑戦し、試行錯誤して取り組む**学びの過程**におもしろさを感じられるようにすることが、「おもしろいコト」の共有ととらえた。この「おもしろいコト」に夢中になりながら、豊かな学びを通して、跳び箱の向こうにいくために必要となる技能を身に付けていく。

Gボール跳び箱は、球体のため通常の跳び箱よりも横幅や奥行きが短く、「足が当たりそうで怖い」、「お尻が当たりそうで怖い」と恐怖心をもつ子供に対して、安心感を与えることができる。また、一見開脚跳びの補助用具のように考えられがちで、開脚跳びができれば使われなくなるように思われるが、通常の跳び箱でかかえ込み跳びに挑戦していた子供が、「Gボールでできるかな」と挑戦する姿も見られた。

跳び箱を連続に並べたのは、「どうすれば跳び箱の向こうにいけるか」に夢中になる子供は、技のできばえにめあてをもつのではなく、いろいろな跳び越え方に挑戦することにおもしろさを感じていると考えている。したがって、一台の跳び箱に挑戦する場だけでなく、複数の跳び箱に連続して挑戦する場をつくり、仲間と協力していろいろな跳び越え方に挑戦できるようにする。子供の感想からは、「一台はできるかどうかの不安があるが、連続は失敗しても次がある」、「連続は工夫ができる」など、連続の場に対して好意的に取り組むことができた。

②授業の実際

<展開、行い方の約束等>

☆子供が自分なりの跳び越え方に挑戦できるような「問い」を考える。

ex.「おしゃれに〜」、「かっこよく〜」

☆教師が設定したコースで「どうすれば跳び箱のむこうにいけるか」に挑戦する。コースを変えたいときは教師に相談する。「高い跳び箱が跳べること」、「難しい技ができること」よりも、「自分なりに挑戦して、前よりも変化があったかどうか重要」という学びの価値観を共有する。

☆副読本や友達の動きを見て、自分に必要な情報を探し活用する。

<場づくり>

★安心感のある跳び箱やマット。

★リズムが感じられる。「どのようにして〜」と思考できる。

★一つの場を5〜7人が使えるようにする。



<動きの工夫につながる子供の思考の例>

◇連続で跳ぶには勢いが必要だ。(助走、踏み切り)

◇リズムよく跳びたい。(跳び方の選択、着地)

◇○○跳びに挑戦したい。(場の選択、情報収集・活用)

2 「スラックライン」について

①体づくり運動の「おもしろいコト」の共有

体づくり運動の「おもしろいコト」は、「どうすればできるか」である。自分の体の操作をすることに夢中になり、体力や動きを高めることを楽しめるようにする。「新しい動きができた」、「○回できた」、「○秒できた」、「○mまでいけた」という、自分なりの変化に気づき、喜びを感じられるようにする。

スラックラインは、細いベルト状のラインの上でバランスを楽しむ遊びである。「バランス感覚や集中力などを鍛えることができる」と他のスポーツのオフトレーニングとしても幅広く使用される。子供は「どこまでいけるか」に夢中になり、「どうすれば進むことができるか」を思考(試行)する。

②授業の実際

<展開、行い方の約束等>

☆「どうすれば進むことができるか」を思考(試行)する。※ほうっておくといろいろな遊びに発展してしまう。順番がなかなか回らない。

☆勢いを付けると落ちたときに危険。一歩ずつ集中して確実に進むことが大切。

<場づくり>

★室内：バレーボール&鉄棒の支柱、屋外：木(直径25cm以上)。下には必ずマットを敷く。

★スタート地点、中継点を作る(跳び箱4〜5段)



<動きの工夫につながる子供の思考の例>

◇バランスを取るときは、体のどこを動かすのだろう。

◇まっすぐ前を見よう。

◇どのくらいのスピードでいこうか。